



創価大学

Discover your potential
自分力の発見



図書館報

2024 WINTER No.64

SEASON



写真：寒風に凜たる創価大学

ISSN 1349-3760



図書館コラム

経営学部 岡田 勇 准教授



特集 「ブックんと巡る

書庫の歩き方」



ミニコーナー ある図書館の日常



図書館掲示板

Does Steve Jobs Dream of Bullshit Jobs?

遙か半世紀以上前、アメリカのSF作家によって書かれた "Do Androids Dream of Electric Sheep" は『アンドロイドは電気羊の夢を見るか』という特徴的な邦題によって日本にも知られているが、近未来のAI社会を髣髴とさせる妙なりアリティに満ちている。作中、人間と区別できないアンドロイドを見分けるため他者への共感を測定する場面が出てくるが、これとて人間だけが持ちうる能力かどうか、今や疑わしいというのが巷間の見立てかもしれない。つまり、時代は変わったということである。

さて。

このエッセーでは、イノベーションの達人であったスティーブ・ジョブズに敬意を払うべく組織人の狡さを嗤ってみようと思う。妙な慣習や柵に絆されて、意味のないタスクに振り回されていると、同じジョブズでも違うジョブズを連想する。ブルシットジョブズとは、誰も読まない雑誌の執筆が順番で回ってきて、仕方なくその仕事をこなす際に生じる哀愁の名称である。イノベーションは悪しく利用される。技術はくだらない無意味な仕事を量産し、ハムスターの無限水車よろしく人々をルーティンワークに追い込むために使わ

れる。生成AIやブロックチェーンが、ホワイトカラーはほぼほぼ断捨離の対象であると暴露しているにも拘わらず。

時代が変わるときは、劇作家の出番だ。分かりやすい喜劇が作られる。1995年に僅か25万画素というデジカメが登場した時、世界に冠たるフィルムカメラ会社の社長は「今後は高品質のフィルムカメラと低品質のデジタルカメラという二極化が起きる」と予測した。しかし、破壊的イノベーションの教科書には、それから20年も経たずに破産申請に追い込まれたオチが紹介されている。

先日訪れたレストランでは、R2D2のような配膳ロボットがのろのろと歩いていた。興味深かったのは、客席で料理を並べるためにその後を歩く手持ち無沙汰のウェイターである。これを見て人々は何と思うだろう。最先端ロボットに興味を抱く小学生も、意味ないじゃん馬鹿にするティーンエイジャーも誤りではない。しかし桐一葉落ちて天下の秋を知る。確実に未来は変わると予見する扇動家もいるだろう。いつの時代もイノベーションは人々の嘲笑を滋養とする。時代を見誤るのは世の常だから、誰も責められるべきでない。しかし真に厄介なのは嘲笑ではなく抵抗である。

変わりゆく時代の抵抗勢力はいつの時代も現体制である。しかも巨大組織であるほどフェーズの変化に気づかないものだ。例えばオワコンと揶揄されるテレビ業界。巨大なコスト構造を誇るこの業界は、恐竜よろしく総力を挙げて古き良き時代の栄光を演出するが、その間隙を走り回る30gにも満たないエオマイアの知恵に気づかない。歴史は繰り返す。フィルムカメラの教訓は活かされない。

ここで注意すべきは、オワコンは業界の滅亡を予言しているのではなく、コモディティ(日常品)的なメジャーからニッチという新天地への航海を促しているに過ぎないということ。決して産業そのものは死なない。写真の登場は絵画を滅ぼさなかったし、レコードも歌舞伎もコアなファンを獲得して停滞の名誉に浴した。ニッチを狙う産業本来の立ち位置に戻ただけと捉えるべきだ。だから大事なことは時代を見極めること。生き残るのは強いものではなく、変化に敏感なものだという進化論者の言葉はリピ確だ。その際、時に組織は悪となる。官僚制の逆機能に、組織は自己を維持するため新たな仕事を作り、その結果不要なタスクが増産される、というのがあ。輝かしき成功体験に固執した組織はレームダック化しても存在意義を主張し、時代の足を

引っ張るお荷物となる。茹でガエルの話は何も両生類に向けた教訓なのではない。

さて図書館。民衆を鼓舞した知の牙城という役割は過日のものとなり、マニアックでニッチな機能にその使命を変えつつあるというのが、筆者の見立てだ。しかし身の丈に合った組織への脱皮を指揮する猛者は存在しないのが通例だ。その結果、例えば原稿に誤字を見つけようものなら、意味が分かれば良しとする価値観の多様性には目を瞑り、以上に厳しく指摘し修正させることに汲々とする。もしや修正が重要なのではなく、修正を指摘する組織こそが重要なのだと言いたいのだろうか。ならばそのようなタスクが不要だなどとは口が裂けても言ってはいけない。

官僚組織は常に新たな仕事を作る。もっと端的に表現すれば、組織は自己目的化する。今、自分のやっていることがブルシットジョブだと気づいたら、すぐに撤収せよ。ぐずぐずしている暇などない。自身の創造性が必要とされる場面は、すぐそばにあるのだから。

入庫する手続き

書庫利用カウンター
Closed Stack Reception Counter



「閉架」と表示されている資料を探すには書庫へ入る必要があるね。1F 書庫利用カウンターで学生証（利用証）を提示しよう。スタッフへ「書庫へ入りたい」と伝えたら、入庫資格※があるから入庫証をもらえたよ。（※ P6 ページ参照）



バッグなどの荷物は持って入れないよ。入庫証の番号と同じ番号のロッカーに荷物を預けてから入るんだって。

入庫証をつけて、準備はOK！いざっ！

ブックンと巡る 書庫の歩き方

出庫する手続き



荷物をロッカーから出して、入庫証と持ち出した資料をスタッフに渡してね。「貸出」か「館内閲覧」が選択して、利用したい方を伝えて。貸出する場合はサービスカウンターで貸出手続きするよ。

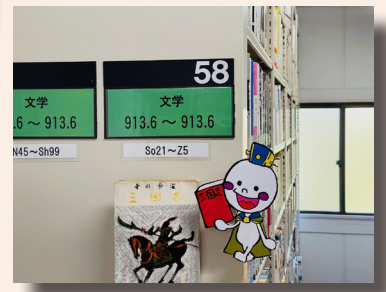
こんにちは！ボク、ブックン。Soka Book Wave（全学読書運動）のイメージキャラクターなんだ！ヨロシクね☆

書庫の中は難しくないよ！ぜひ、みんなに書庫の中を巡って、新しい出会いをしてほしいから、ボクと一緒にバーチャルツアーに出かけよう♪

書庫内の書架



書庫には、大型図書や参考書など、「別置」の図書がたくさん。探している図書が「別置」かどうか、よく確認してね。

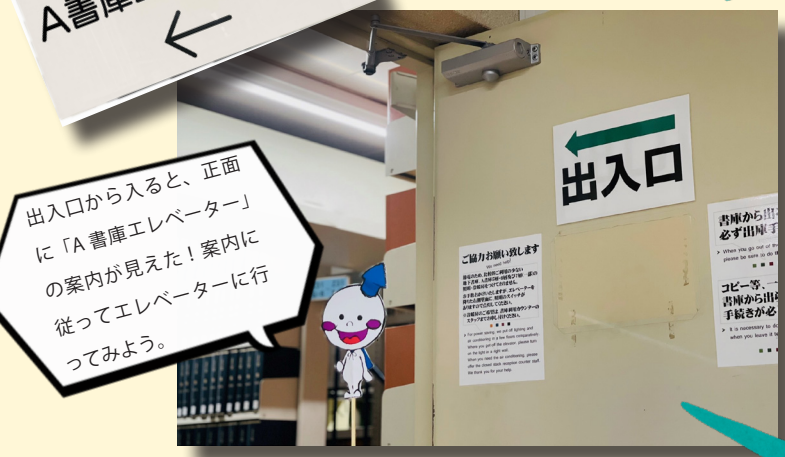


探しているのは和書だから、請求記号で探して・・・あった！1階書庫利用カウンターまで戻るう！

A書庫エレベーター

書庫の入り口

出入口から入ると、正面に「A書庫エレベーター」の案内が見えた！案内に従ってエレベーターに行ってみよう。

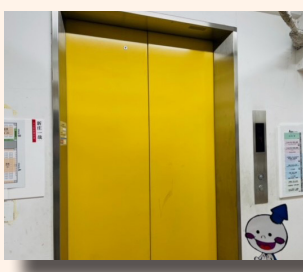


A書庫とB書庫の間に、エレベーターの場所を案内する表示があるよ。

エレベーター フロアマップ



1層～4層の各フロアはA書庫とB書庫があるんだね。エレベーターはA書庫とB書庫にそれぞれあるよ。フロアマップがエレベーターのドア横、エレベーター内にあるんだ。



4層に行くには、どちらのエレベーターでも行けるね。僕が行きたいのは「B書庫」だから、黄色のB書庫エレベーターに乗ろう！



書庫の書架は「可動式」もあるんだ。可動式書架は自由に動かして良いんだって。ハンドルを回して移動させるよ。移動する前に、すでに開いている書架に人がいないことを確認してね。

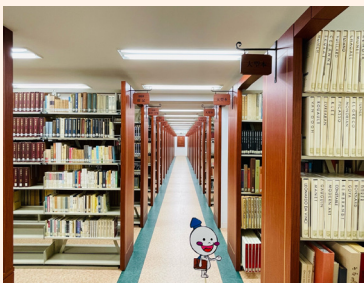


可動式書架を開いたら、しっかりロックをしてね！書架を見ると、閉められちゃったら大変！！安全に利用するポイントだから、覚えておいて。

書庫の出入口は、ロッカーの右手にあるよ。矢印に従って中へ入ってこう。書庫の中は段差も多いから、足元に十分気を付けて入庫して。書庫内の床には、矢印でガイドが表示されていることもあるから、迷ったら慌てず見渡してみてね。4層に行くには・・・エレベーターがあるみたい！行ってみよう！

7フロア紹介

7層



7層は池田文庫。5、6層は洋書。

入庫資格があると、池田文庫の貴重な資料も手に取って読むことができるよ。

池田文庫の本は貸出はできないけど、書庫から持ち出して閲覧室でゆっくり読むのはOK！

6層



5層



4層



2～4層は和書。1つの階にA書庫B書庫と2フロアあるよ。真ん中で繋がっているから行き来は簡単。そして、各階には大型図書や本学教員著作、文庫、教職大学院資料など和書とは別に配架されている「別置」がたくさんあるから、フロアマップで確認してね。

3層



2層



1層



1層は和雑誌、新聞、本学修士論文など。A書庫B書庫と2フロアあるよ。新聞は一般紙の縮刷版や、1978年から当日分までの聖教新聞が閲覧可能だよ。

B1層は洋雑誌、統計資料と法律資料、和漢書。洋雑誌は電子ジャーナルで閲覧できないものが中心。和漢書は直接探せないから、出庫依頼してね。貸出できないものは館内で利用できるよ。

書庫利用講習会のご案内

中央図書館の書庫を利用する入庫資格を希望される方は、書庫利用講習会を受講してください。本学所属学生の方が対象となります。

1度受講すると、入庫資格は在籍期間中（卒業まで）有効です。

2023年度の講習会は終了しましたが、2024年度に開催を予定しております。開催日時、申込方法などの詳しい情報は、図書館ウェブサイトまたはポータルサイトにてお知らせいたします。

ある 図書館の 日常

図書館のアレコレ。中のヒトが伝えます。

#01

「池田文庫」ご寄贈
30周年記念展示

2023年11月16日(木)
～12月15日(金)

中央図書館では、創立者池田大作先生から「池田文庫」の御寄贈を発表して頂いてより30周年を記念し、『池田文庫ご寄贈 30周年記念展示』を開催しました。

創立者ご揮毫入り図書、戸田大学の教材の一部、創立者が特別文化講座「人間ゲーテを語る」、また「永遠に学び勝ちゆく女性 キュリー夫人を語る」の中で、紹介された図書から「池田文庫」所蔵の図書も展示され、期間中多くの来館者にご覧いただきました。

#03

アップサイクルグッズを
配布しました！

2023年11月8日(水)
～11月14日(火)

SDGsの一環として、イベント開催期間中、廃棄する新聞等で作ったエコバッグやパスケースなどのアップサイクルグッズを配布しました。特にパスケースは、初日に予定数に達し、大好評となりました。

#02

「読書人カレッジ」開催！

2023年9月16日(土)

作家の温又柔氏を講師に迎え、中央図書館1階ラウンジ・コモンズにて「読書人カレッジ」を開催しました。

温氏は講演の中で、「自分が知らなかった知識を得ることで自分を小さくするのはなく、知ったことをバネに自分をのびやかにするための本が、おそらく自分にとっての〈必読書〉なのではないか」と参加者に呼びかけました。

SRP 活動レポート



SRP (Soka Reading Project) では、創大祭期間中、読書展を開催しました。2023年1月に刊行された創立者池田大作先生の『完本 若き日の読書』を研鑽して学んだことを図書とともに展示し、あわせて、SRPの活動内容やおすすめ本も展示しました。

また創価大学では、第52回定期学生大会における議案の可決により、新たに「文化推進を目的とした記念週間(2023年11月20～24日)」が誕生しました。

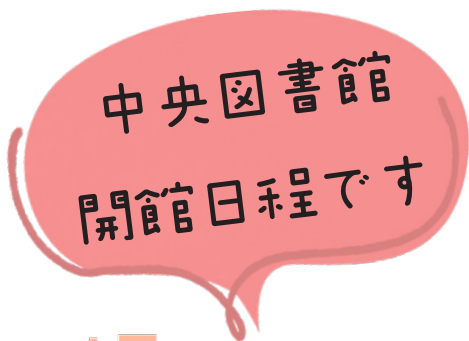
図書館では、SRPの学生主催で、学生自治会と連携し、3日間にわたり読書会を開催。

11月20日(月)・23日(木・祝)の読書会では、図書館所蔵の詩集や短編集をその場で選び、皆で読み合い、お互いの感想などを共有しました。さらに11月21日(火)の読書会では参加者それぞれが友人におすすめしたい本を1冊持ち寄り、お互いに図書の紹介をし合いました。

〈参加者の声〉
「本の感想を用いて対話をしているようで、すごく新鮮でした。これから文学にも多く触れていこうと思います」



写真：SRP創大祭記念展示



8:30~21:00

10:00~17:00

9:00~21:00

休館

1月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29		

3月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
	31					

学年末の長期貸出のお知らせ

学年末の長期貸出期間が始まりました。ご実家などの遠方にいる方でも宅配貸出を利用することで図書館の本を借りることができます（送料自己負担）。大学生活で一番長い休みを利用して本を1冊、5冊、10冊と読破してみませんか。

学部生・別科生・短大生：2週間貸出者

2024年1月11日（木）～3月25日（月）

教職員・大学院生・通教生：4週間貸出者

2024年1月11日（木）～3月11日（月）

一斉返却日：2024年4月8日（月）

卒業予定者返却日：2024年2月16日（金）

卒業予定者への注意事項

未返却図書がある場合は、学位記授与を保留にする制度（「学位規則」第16条第2項）が適用され、全て返却または弁償するまで学位記が受け取れません。